令和7年度中国・南昌市への青少年訪問団派遣事業 事後報告書

◆名前：島 愛寿花

江西省及び南昌市に滞在中の様子や本事業で得たこと、感想等をご記入ください。
(1,000字程度)

この旅での経験は、私にとって非常に貴重なもので、感動することばかりでした。まず、このプログラムを準備し、実行に移してくださったすべての方々に心から感謝申し上げます。

私の一番の思い出は、中国での歓迎サービスです。南昌市に到着した際、最初に迎えてくださったのは、明るい声と笑顔で迎えてくださった黄さんでした。長時間の移動で疲れていた私たちですが、温かく迎えられたことに心がとても温まりました。ホテルに到着すると、江西省で有名なお茶のカップが、お土産として用意されていて驚きました。友好協会で行われた歓迎式では、日本から来た3つの都市が集まり、たくさんの温かいメッセージをいただきました。特に「私たちの若い力を活かして交流を行う」という言葉が強く心に残っています。

私たち高松からは、歓迎会でソーラン節とヒットメドレーを披露し、音楽を通じてその場の人々と一気に心を通わせることができたと感じています。また、日本人学校の生徒との交流では、日本のことに関する質問に答える等良い時間を過ごせました。

前回中国に訪れた際は、ほとんど人と話すことができず、コミュニケーションは主に親に任せていました。しかし今回は、自分で準備をし、中国語や英語で最低限の会話をこなすことができ、とても大きな達成感を感じました。同行した高松のメンバーともより親しくなり、黄さんやガイドさんと近くでお話し、質問できたことが嬉しかったです。

アレルギーがあるため食事に不安がありましたが、事前に伝えておいたところ、飛行機やホテルでしっかり対応していただき、ほとんどの食事を大満足で楽しむことができました。また、円形のテーブルで食事をする際は、積極的に中国の方々の近くに座り、食習慣を観察したり、疑問に思ったことを聞いたりしました。中国語での会話はほとんど理解できませんでしたが、たくさんリスニングをしたおかげで、簡単な単語を聞き取れるようになりました。円形テーブルでの食事は、日本ではあまり見かけない習慣ですが、四角いテーブルよりも意見交換や会話が盛んに行われ、非常に充実した食事の時間を過ごすことができました。

この6日間で、陶器焼きのことをたくさん学んだり、伝統と近代が融合したショーを見たり、博物館や工場を訪れることで、南昌市や景德鎮のことを深く理解することができました。歴史が深く、近代的な発展も見られる都市で、非常に魅力的でした。

もし今後、江西省を訪れる機会があれば、今回撮った写真を見返しながら、自分の足と頭で街を歩きながらもっと深く味わいたいと思っています。

本当に素晴らしい経験をさせていただきました。ありがとうございました。